

# 尾道市平和映画鑑賞会

—「平和と命の尊さ」について考えてみませんか?—

入場無料

## 映画 太陽の子

柳楽優弥 有村架純 三浦春馬  
イッセー尾形 山本晋也 ピーター・ストーメア  
國村隼 田中裕子



“日本の原爆開発”を背景に、3人の若者の決意と揺れる想いを描いた300日の青春グラフィティ

©2021 ELEVEN ARTS STUDIOS / 「太陽の子」フィルムパートナーズ

定員: 690人

申込不要

日本語字幕付き上映

12:30 開場

上映時間 1時間53分

令和  
6年

# 8月3日(土) 13:30~

## 会場/しまなみ交流館(テアトロ・シェルネ)ホール

主催/尾道市、福山・尾道地域人権啓発活動ネットワーク協議会

協力/NPO法人シネマ尾道

問合わせ先/尾道市人権男女共同参画課 TEL 0848-37-2631

〒722-0041  
尾道市防地町26-24



太平洋戦争末期に存在した「F研究」と呼ばれる「日本の原爆開発」。その事実を基に、時代に翻弄されながら全力で駆け抜けた若者たちの、等身大の姿を描いた青春群像物語。監督・脚本は「晴天を衝け」など多くの話題作を手がける名手・黒崎博。彼が10年間大切に温め続けたこの企画に共鳴し、柳楽優弥、有村架純、三浦春馬、田中裕子、國村隼、イッセー尾形、山本晋也、そしてピーター・ストームアが参加。

音楽にはアカデミー賞5部門ノミネートの『愛を読むひと』のニコ・ミュリー、サウンドデザインに『アリー/スター誕生』のマット・ヴォウレスと、ハリウッドスタッフが続々と参加。さらに主題歌を、製作陣の熱い想いを受け止めた福山雅治が担当し、心に沁みるバラード「彼方で」で物語を深く彩る。



「ひよっこ」「晴天を衝け」

「愛を読むひと」

監督・脚本：黒崎博 音楽：ニコ・ミュリー 主題歌：「彼方で」福山雅治 (アミューズ/ユニバーサル)

## 事実を基に描く — 柳楽優弥×有村架純×三浦春馬×監督：黒崎博 映画「太陽の子」 日米で描く“日本の原爆開発”——。ハリウッドを魅了した青春物語。

### STORY

1945年の夏。軍の密命を受けた京都帝国大学・物理学研究室の若き科学者・石村修(柳楽優弥)と研究員たちは、原子核爆弾の研究開発を進めていた。研究に没頭する日々の中、建物疎開で家を失った幼馴染の朝倉世津(有村架純)が修の家に居候することに。時を同じくして、修の弟・裕之(三浦春馬)が戦地から一時帰郷し、久しぶりの再会を喜ぶ3人。ひとときの幸せな時間の中で、戦地で裕之が負った深い心の傷を垣間見る修と世津だが、一方で物理学に魅了されていた修も、その裏にある破壊の恐ろしさに葛藤を抱えていた。そんな二人を力強く包み込む世津はただ一人、戦争が終わった後の世界を見据えていた。それぞれの想いを受け止め、自分たちの未来のためと開発を急ぐ修と研究チームだが、運命の8月6日が訪れてしまう。日本中が絶望に打ちひしがれる中、それでも前を向く修が見出した新たな光とは——？



©2021 ELEVEN ARTS STUDIOS / 「太陽の子」フィルムパートナーズ

### 映画に描かれなかった後日談

広島市の中心部から国道2号線を西におよそ30Km。瀬戸内海を臨む温泉地として親しまれる広島県廿日市市宮浜温泉の米山広場に、「京都大学原爆災害総合研究調査班遭難記念碑」が建立されています。この碑は、1945年(昭和20年)9月17日、現地を襲った枕崎台風によって起きた大規模土砂災害で亡くなった方々の慰霊碑として建てられました。この中には、当時、原爆の被害調査を陸軍から依頼された京都大学の調査班が広島を訪れ、この調査中に土砂災害の犠牲となった班員11名も含まれています。